

# 下田総合庁舎 定例記者懇談会資料

令和6年1月25日

## 賀茂地域局

次回の定例記者懇談会  
令和6年2月22日（木）  
午前9時30分から  
会場：賀茂キャンパス

# 目 次

## ◎重要施策発表

ヒュウガナツの省力的栽培技術の開発	1
(伊豆農業研究センター)	

## ◎令和6年2月の行事予定

行事予定表	10
-------	----

賀茂キャンパス活用プログラム「静岡県立大学 社会人講座」第35回講座	12
(賀茂地域局地域課)	

防災講座の開催	14
(賀茂地域局危機管理課)	

宿泊施設を活用した福祉避難所の設置訓練を行います	15
(賀茂健康福祉センター)	

果樹のカットバック処理講習会の開催	18
(賀茂農林事務所)	

第15回 伊豆農業研究センター公開デー	19
(伊豆農業研究センター)	

春季観光イベント期間における道路工事の自粛について	20
(下田土木事務所)	

【別紙】河津桜の開花予測について	(伊豆農業研究センター)
------------------	--------------

定例記者懇談会構成員名簿

	役職名	氏名
1	賀茂地域局長	しらとり みちひろ 白鳥 満啓
2	賀茂地域局副局長兼賀茂危機管理監	ぬまの かつし 沼野 克史
3	伊豆観光局長	いちかわ けん 市川 顯
4	下田財務事務所長	かみや あきよし 神谷 明良
5	賀茂健康福祉センター所長	すずき ふじお 鈴木 藤生
6	賀茂健康福祉センター医監兼賀茂保健所長	ほんま よしゆき 本間 善之
7	賀茂農林事務所長	もろた りょう 諸田 僚
8	農林技術研究所伊豆農業研究センター長	たねいし もとひろ 種石 始弘
9	水産・海洋技術研究所伊豆分場長	よしかわ やすお 吉川 康夫
10	下田土木事務所長	とつか ひろふみ 戸塚 博文
11	賀茂広域消費生活センター所長	くらしま ひろあき 倉島 浩彰
12	賀茂地域教育振興センター参事	つちや かずみ 土屋 一巳
13	賀茂地域局次長兼地域課長	しらつち たつお 白土 達夫
14	賀茂地域局参事兼危機管理課長	すずき かなめ 鈴木 要

賀茂地域定例記者懇談会 座席表  
 (下田総合庁舎別館 2階 賀茂キャンパス)

柱

スクリーン

重要施策発表者

○

PC

賀茂地域  
 教育振興  
 センター  
 参事  
 参事兼賀茂広域  
 消費生活センター長

○

○

下田土木事務所長

○

水産・海洋技術研究所  
 伊豆分場長

○

伊豆農業研究センター長

○

プロ  
 ジェクター

賀茂健康福祉  
 センター長

○

賀茂保健所長

○

賀茂農林事務所長

○

副局長兼  
 賀茂危機  
 管理監

○

伊豆観光局長

○

下田財務事務所長

○

賀茂地域局長

○

地区次長兼  
 課長

○

危機参事兼  
 管理課長

○

○

○

○

○

○

○

○

○

記者席

○

○

○

○

○

○

○

出入口

記者席

## ヒュウガナツの省力的栽培技術の開発



伊豆農業研究センター生育・加工技術科

令和6年1月25日 定例記者懇談会

伊豆農業研究センターで取り組んでいる、ヒュウガナツの省力的な栽培技術の開発について 紹介します。

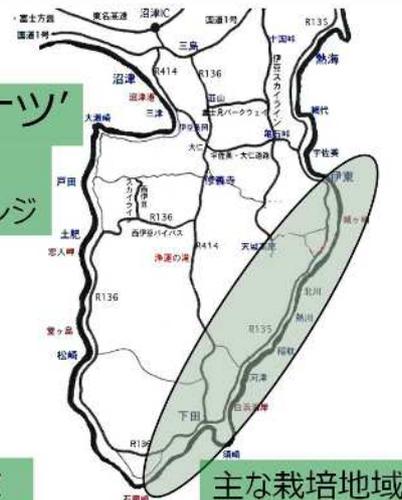
## 背景：伊豆特産カンキツ「ヒュウガナツ」



‘ヒュウガナツ’  
商品名：  
ニューサマーオレンジ



果皮・果汁を利用した加工品は多数



主な栽培地域

### 伊豆地域の果樹農業・観光業の基幹品目

ヒュウガナツは、伊豆半島の東部地域を中心に栽培される柑橘で、大正9年頃に栽培が始ったといわれています。

黄色い果皮と爽やかな香りが特徴で、収穫期が4月から5月であることから、伊豆の初夏を連想させ、この地域を訪れる観光客に提供する農産物として非常に重要な位置づけとなっています。

更に、加工した際にもその特有の香りが残るため、果皮や果汁を利用した加工品が多数商品化され、観光客に販売されていることから、伊豆の果樹農業だけでなく観光業にとっても根幹を担う品目であるといえます。

## 背景：ヒュウガナツの巨木化による作業性悪化



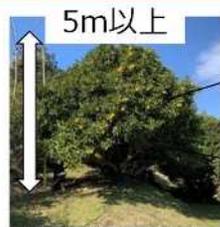
ヒュウガナツ（河津町内にて撮影）

ヒュウガナツを栽培する上で問題となっているのが作業性の悪化です。

伊豆地域での栽培が始まってから約100年が経過しており、樹が大きくなりやすい性質をもつことから、産地では樹齢40年以上の巨木化したヒュウガナツを良くみかけます。

自動車との比較でその大きさが分かるかと思います。

## 目的：省力的に栽培可能な技術開発



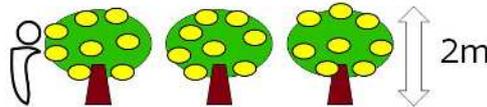
老齡樹の巨木化



高所での作業

重労働  
で  
危険を伴う

再生



2m



地上で省力的  
かつ  
安全に作業！

本研究の目的：省力的かつ安全に栽培できる  
ヒュウガナツの低樹高化栽培技術の開発

園地によっては樹高が5 mを超えて成長したヒュウガナツがみられる場合もあります。

大きくなってしまったヒュウガナツでは、樹に登って作業することになるため、収穫などの作業に非常に多くの労力がかかるだけでなく、大変危険を伴います。

伊豆農業研究センターでは、巨木化した樹を管理しやすい2 m程度の高さに再生し、樹に登ることなく地上で安全に作業できる、低樹高化栽培技術の開発に取り組んでいます。

## カットバック処理とは



樹高を低くする方法として、主幹部を50～60cm程度残して、樹の地上部を全て切り落とす「カットバック処理」を検討しています。

カットバック処理してからおよそ1ヶ月後には切り口から新しい枝が伸び始め、この枝を使って管理しやすい大きさに樹を再生していきます。

伊豆農業研究センターでは、①カットバック処理後の樹の生育状況、何年目から花が咲き、果実が採れるのか、②収穫作業の時間はどの程度削減できるか、について調査しています。

## 成果①カットバック後の樹体生育と着蕾・結実



こちらはカットバック前から処理3年後まで、1年ごとに撮影した写真です。処理前の樹の高さは5.1mと非常に高い状態でした。

これを令和2年の5月にカットバックしたところ、処理後の1年間で多くの枝が発生し、1年後には1.6mまで樹が再生しました。

令和3年の5月にはつぼみがつき、果実が実り、カットバックから2年後の令和4年には収穫が可能となりました。

また、樹の高さは2.1mとなり、目標とする高さに達し、管理しやすい高さの樹に作り直すことができました。

## 成果②カットバック処理後の収穫作業時間



・ 収穫時間：約 4 割削減

・ 脚立不要で安全な作業に

こちらは、カットバックしていない大木とカットバックして低く再生した樹で、収穫の作業時間を比較した結果です。

カットバックして再生した樹では、大木に比べておよそ収穫時間の 4 割を削減できることがわかりました。

大木の収穫ではほとんどが危険な樹上での作業でしたが、処理して再生した樹ではすべての果実を地上で収穫することができたことが、作業時間の削減につながったと考えられ、地上で安全に作業できるため高齢の園主であっても問題なく収穫が可能である考えられました。

今回は収穫に要する時間を調査しましたが、この他にも剪定、農薬散布などの作業時間についても、樹が小さくなることによって大きく短縮できることが予想されます。

## 生産者の反応

### <カットバックを実施した生産者>

- ・耕作意欲が湧いた。
- ・カットバックする樹を増やしたい。

### <カットバック予定の生産者>

- ・ヒュウガナツ以外のカンキツでも可能なのか？  
→R6より取組予定（青島温州、甘夏、ダイダイ）



青島温州



甘夏



ダイダイ

カットバックを既に実施している生産者からは、「作業が非常に楽になって耕作意欲が湧いた」とか、「もう少しカットバックする樹を増やしたい」という声をいただいています。

今回の取り組みは、JAの部会などで情報提供していますが、柑橘生産者の関心が高く、「ヒュウガナツ以外のカンキツで実施してみたい」という意見が多く聞かれます。

そこで、来年度からは、新たに青島温州、甘夏、ダイダイの3品種でカットバックが可能かどうかを調査する予定です。

## 今後の取り組み

- ・ カットバック処理  
マニュアルの作成



- ・ カットバック講習会の開催  
(令和6年2月21日賀茂農林主催)



なお、取り組みの結果は、カットバック処理マニュアルとして取りまとめている最中で、これを広く配布することで、生産者がマニュアルをみながらご自身でカットバックができるようにしていきたいと考えています。

来月21日には、技術の普及にむけ賀茂農林事務所が主催するカットバック講習会が、伊豆農業研究センターにて開催され、生産者に、実際にカットバック処理をご覧いただく予定です。

今後もJAふじ伊豆、賀茂農林事務所と3者で連携しながら、生産者の皆様に情報発信を行ってまいります。

## 行事予定表（令和6年2月分）

日	曜日	賀茂地域局	下田財務事務所	賀茂健康福祉センター	賀茂農林事務所	下田土木事務所
1	木					春季工事抑制期間 2/1～2/29
2	金					
3	土					
4	日	静岡まるごと移住フェア 11:00～16:30 東京交通会館				
5	月					
6	火	防災講座 9:20～12:05 南伊豆東小学校				
7	水					
8	木					
9	金					
10	土					
11	日					
12	月					
13	火					
14	水					
15	木					
16	金	観光人材育成のための社会人講座 13:30～15:00 賀茂キャンパス				
17	土					
18	日					
19	月	防災講座 11:00～12:00 聖和保育園				
20	火					
21	水				カットバック処理講習会 13:00～ 伊豆農業研究センター	
22	木	定例記者懇談会 9:30～ 賀茂キャンパス				
23	金					
24	土					
25	日					
26	月					
27	火					
28	水					
29	木					

## 行事予定表（令和6年2月分）

日	曜日	農林技術研究所 伊豆農業研究センター	水産・海洋技術研究所 伊豆分場	賀茂広域 消費生活センター	賀茂地域 教育振興センター	伊豆観光局
1	木					
2	金					
3	土	第15回公開デー 9:30～15:00 稲取				
4	日					
5	月					
6	火					
7	水					
8	木					
9	金					
10	土					
11	日					
12	月					
13	火					
14	水					
15	木					
16	金					
17	土					
18	日					
19	月					
20	火					
21	水					
22	木					
23	金					
24	土					
25	日					
26	月					
27	火					
28	水					
29	木					

令和6年1月25日

定例記者懇談会資料

賀茂キャンパス活用プログラム「静岡県立大学 社会人講座」第35回講座

(賀茂地域局)

(要旨)

「静岡大学、静岡県立大学、静岡文化芸術大学と賀茂地域1市5町の相互連携に関する協定」に基づき、賀茂キャンパスにおいて、静岡県立大学による「観光人材育成のための社会人講座」の第35回講座を令和6年2月16日(金)に実施する。

※参加費は無料、毎月1回開講予定(単発の参加可)

(概要)

日時	第35回 令和6年2月16日(金) 13:30~15:00 ※毎月1回継続実施
会場	静岡県下田総合庁舎別館2階 賀茂キャンパス ※別館1階玄関からお入りください。 ※駐車場台数に限りがあるため、公共交通機関の利用・車の乗り合わせに協力願います。
内容	講師：静岡県立大学大学院 ツーリズム研究センター 内海 佐和子 教授 演題：「県立大生からみた観光地としての伊豆・下田」
対象	県民
参加費	無料
申込	 QRコードからの申込、もしくは、 静岡県立大学ツーリズム研究センターのメール：trc@u-shizuoka-ken.ac.jp、 又はFAX：054-264-5476に氏名、所属、電話番号を記入の上、お申込みください。 ※定員に達した場合は、参加をお断りすることがあります。
問合せ先	賀茂地域局地域課 電話：0558-24-2204 主催：静岡県立大学大学院経営情報イノベーション研究科附属ツーリズム研究センター 共催：静岡県賀茂地域局

担当：賀茂地域局地域課

連絡先：0558-24-2204

# 賀茂キャンパス 観光人材育成のための 社会人講座

主催：静岡県立大学ツーリズム研究センター

協賛：静岡県賀茂キャンパス活用推進委員会

2023年度 第35回（毎月1回開講します）

2月16日（金）13:30～15:00

静岡県下田総合庁舎内賀茂キャンパス（下田市中531-1）

## 県立大生からみた 観光地としての伊豆・下田

講師：内海 佐和子

静岡県立大学大学院ツーリズム研究センター教授

昭和女子大学大学院博士課程単位取得満期退学  
ベトナムの世界遺産であるホイアンとの景観変容に関する  
研究で博士（学術）の学位を取得  
国立大学法人室蘭工業大学を経て、2022年より現職  
研究テーマは「世界遺産に対する観光地化の影響」



県西部出身の学生が言いました。「伊豆は静岡じゃないです。」  
静岡じゃないなら、どこなの？ 感覚的に神奈川県って感じ？  
「いえ。伊豆は伊豆です。神奈川ではない。静岡でもない。」  
伊豆は立派に静岡の一部だと思うけど。  
「遠いんです。一度も行ったことないし。」  
え？ 一度も？ 生まれてから、ずっと静岡県民なのに？  
こんな会話から、若い世代の伊豆に対する意識が気になり、調べてみた意識調査の報告です。

働きながら学べる最新の観光情報。無料で参加できます。

静岡県立大学大学院経営情報イノベーション研究科附属  
ツーリズム研究センター

Mail : [trc@u-shizuoka-ken.ac.jp](mailto:trc@u-shizuoka-ken.ac.jp)

FAX : 054-264-5476



メール、FAXもしくはQRコード  
からお申込みください。

## 防災講座の開催

(賀茂地域局 危機管理課)

## (目的)

賀茂地域局危機管理課では、防災における「自助・共助・公助」の基本を踏まえた地域防災力強化のため、自主防災組織、教育機関、ボランティア組織等、地域の防災を担う組織と連携して、防災講座や連絡会議等の開催、訓練・研修等を実施している。

## (概要)

実施日時	実施場所	実施対象	内容等	備考
2月6日(火) 9:20~12:05	南伊豆東小学校 (南伊豆町)	全校	未定	
2月19日(月) 11:00~12:00	聖和保育園 (松崎町)	保護者	未定	

(計2回)

## (お願い)

学校での防災講座を取材する際には、各学校まで取材を行う旨をご連絡くださいますようお願いいたします。

講座の内容については、変更になる場合があります。

講座の内容に関するお問合せは下記担当までお願いいたします。

担 当：危機管理課 鈴木

連絡先：0558-24-2004

## 宿泊施設を活用した福祉避難所の設置訓練を行います

(賀茂健康福祉センター)

## (概要)

県では、自然災害発生時に要配慮者の二次的避難を受け入れる福祉避難所の拡充について、地元市町・民間関係者とともに各地域の実情に即した避難所設置モデルを定め推進する取組を進めています。

賀茂地域においては、恵まれた観光資源を念頭に、下田市、観光関係者、福祉関係者及び県が協働で、下田市と下田温泉旅館協同組合が平成28年に締結した協定をベースに、宿泊施設を福祉避難所として活用する仕組み「賀茂モデル」を策定し、それに沿った福祉避難所の設置促進を図ってきました。

今回、この「賀茂モデル」の取組の一環として、下市内の宿泊施設において、福祉避難所設置・運営のための実証等を目的に下記のとおり実地訓練を行います。

## 記

- 1 日 時 令和6年1月30日(火) 午前10時30分から午後1時30分まで  
(実訓練時間 午前11時30分から午後1時30分まで)
- 2 会 場 下田東急ホテル(下田市五丁目12-1)
- 3 開催者 静岡県(賀茂健康福祉センター、賀茂地域局)  
下田市(防災安全課、福祉事務所)  
下田温泉旅館協同組合 他
- 4 詳 細 別添資料のとおり
  - ・「賀茂モデル」による令和5年度福祉避難所設置訓練の内容
  - ・訓練スケジュール

## (参考) 賀茂モデルについて

賀茂地域は、観光資源が豊富で、宿泊施設が多数存在していることから、個室や寝具等が整った宿泊施設を、自然災害発生時に避難所として活用できれば、被災者の安全・安心の確保に非常に有効な方策となり得ます。

そこで、下田市、観光関係者、福祉関係者及び県とで協議した結果、宿泊施設の資源を、有事に、配慮が必要な方に福祉サービスの提供を行える二次的避難所として活用することに取り組んでいくべきと結論づけ、下田市が平成28年4月に下田温泉旅館協同組合との間で締結した「災害時における避難所としての使用に関する協定」をベースに、宿泊施設への福祉避難所設置を普及させるため、設置の仕組みとして「賀茂モデル」を策定しました。

担 当 : 福祉課福祉こども班

連絡先 : 0558-24-2055

## 訓練スケジュール

※本表においては「賀茂健康福祉センター」を「県」、「下田市」を「市」、「下田東急ホテル」を「ホテル」とそれぞれ記す。

番号	予定時間	訓練内容
1	10:30	県・市担当職員が会場へ集合
2	11:30	訓練開始(※次の「3」以降の丸数字が訓練内容)
3	11:30 ～11:40	① 市→ホテル〔「避難所の開設依頼」(電話)〕 ② ホテル→市〔「避難所開設可の報告」(FAX)〕
4	11:40 ～11:50	③ 市→ホテル〔3人の要支援者と家族(妊婦、乳幼児、障害のある高齢者)の受入要請(FAX)〕 ④ ホテル→市〔「3人の受入れ可」の旨の報告(電話)〕 ⑤ ホテルにおける要支援者3人の受入れ準備開始
5	11:50 ～12:00	⑥ 市→県〔「福祉避難所開設に向けた状況確認等結果報告」(FAX)〕 ⑦ 市〔移送(12時出発)の準備〕
6	12:00 ～12:10	⑧ 市〔3人の要支援者とその家族を、市役所(下田中学との想定)からホテルへ移送開始(妊婦12:00発、乳幼児12:05発、高齢者12:10発)〕
7	12:10 ～12:53	⑨ 要支援者が、ホテルへ到着後、各々受付業務を開始 ⑩ 受付終了後、居室へ案内
8	12:53 ～13:30	⑪ 妊婦が発熱(想定) ⑫ ホテル→市〔「妊婦の発熱者発生」の連絡(電話)〕 ⑬ 市→医療救護所駐在医師〔市が妊婦の症状を医師に報告し、医師から処遇の指示を受ける(電話)〕 ⑭ 市→ホテル〔医師からの指示内容の伝達(FAX)〕 ⑮ ホテル→妊婦付添人〔医師からの指示内容の伝達〕
9	13:30	訓練終了
10	14:00 ～15:00	反省会実施

# 「賀茂モデル」による令和5年度福祉避難所設置訓練の内容

## 1 目的

平成29年3月に作成した「宿泊施設への福祉避難所設置モデル（賀茂モデル）」に基づき、下田温泉旅館協同組合員施設における情報連絡や受入体制手順等を確認し、具体的な検証を行うことで福祉避難所設置に関する事項の向上を図る。

なお、今回は風水害を想定した訓練とする。

## 2 日時

令和6年1月30日(火)午前10時30分～午後1時30分（実訓練時間 午前11時30分～午後1時30分）

## 3 場所

下田東急ホテル（下田市5丁目12-1）

## 4 想定

- ・非常に強い勢力をもつ台風4号が、相模灘を中心に上陸して、台風本体の発達した雨雲の影響で非常時に激しい降雨をもたらし、降り始めからの累積降水量は250mmを超えている。

そのため、下田市内では、主として平滑川や敷根川沿いの旧町内地区や、大賀茂川沿いの大賀茂・吉佐美地区が床上浸水等の著しい被害を受け、主として旧町内地区の住民が、一次避難所である下田中学校に避難した。今後も、避難生活の長期化も想定されるため、高齢者等の要支援者は、福祉避難所への二次的避難が必要な状況になっている。

## 5 参加機関

下田市、下田温泉旅館協同組合加盟宿泊施設、静岡県、福祉関係機関

## 6 重点項目

- (1) 福祉避難所と下田市との連絡体制の確認
- (2) 福祉避難所までの移送体制の確認
- (3) 福祉避難所での受入体制の確認
- (4) 福祉避難所での新型コロナウイルス等感染症対策

## 7 訓練概要

- ① 床上浸水等の災害発生から1日経過後を想定。交通手段、通信手段は確保されている中で、下田市において福祉避難所の状況把握（建物被害、備蓄、人員不足等）を行うとともに、開設状況を県賀茂健康福祉センターに報告
- ② 下田市から宿泊施設に対し、避難者受入れの要請  
（想定ケース：妊婦と配偶者、乳幼児と保護者、身体障害のある高齢者（車いす使用）と配偶者）
- ③ 各ケースについて、宿泊施設へ移送（車両）
- ④ 宿泊施設で避難者の受入れ
- ⑤ 反省会の実施

## 8 訓練中止の場合

次に掲げる事象が発生した場合は、訓練を中止する。

- (1) 南海トラフ地震臨時情報が発表された場合
- (2) 下田市内で震度4以上の地震が発生した場合
- (3) 静岡県に津波警報又は津波注意報が発表された場合
- (4) 下田市内に気象警報（高潮・波浪を除く）が発表された場合
- (5) 富士山又は伊豆東部火山群の火山活動に異常が認められる場合
- (6) その他、中止することが必要と判断される事象が生じた場合

## 9 連絡先一覧

NO	機関名	住所	電話	FAX 番号
1	下田東急ホテル	下田市五丁目12-1	0558-22-2411	0558-22-4970
2	下田市福祉事務所	下田市東本郷一丁目5-18	0558-22-2216	0558-22-3910
3	下田市防災安全課	同上	0558-36-4145	0558-22-3910
4	県賀茂健康福祉センター福祉課	下田市中531-1	0558-24-2055	0558-24-2159

## 果樹のカットバック処理講習会の開催

(賀茂農林事務所)

### (目的)

賀茂地域では果樹生産者の減少と高齢化による労力の低下、老齢樹の樹高が高いことによる作業性の低下が課題となっており、賀茂農林事務所では省力化技術を推進している。

今回、伊豆農業研究センターが開発した省力化技術の1つであるカットバック処理に関する講習会を、生産者を対象に実施する。

### ※ カットバック処理とは

樹幹部をチェーンソーで根元から切断し、新梢を仕立てる方法。

ニューサマーオレンジは樹勢が強いため、このように切断しても新芽が発芽し、数年で着果することが実証されている。

### (概要)

- |       |   |
|-------|---|
| 1 日 時 | 令和6年2月21日(水) 午後1時から3時まで                       |
| 2 場 所 | 静岡県農林技術研究所伊豆農業研究センター内<br>ヒュウガナツほ場(東伊豆町稲取3012) |
| 3 内 容 | カットバックマニュアルの紹介、実演                             |
| 4 参加者 | ・柑橘生産者(20名程度)<br>・JAふじ伊豆東伊豆営農経済センター職員(2名程度)   |

### (写真)



カットバック処理時



処理1年後



処理2年後

担 当 地域振興課  
連絡先 0558-24-2079

## 第15回 伊豆農業研究センター公開デー

(伊豆農業研究センター)

### 1 概要

伊豆農業研究センターでは、日頃の試験研究成果を広く県民の皆様にお知らせするため、公開デーを開催します。当日は、施設の一部を一般開放するとともに各種研究成果の展示、新しいカンキツ類の試食（食味調査）を行います。

2 日時 令和6年2月3日（土） 午前9時30分から午後3時

3 場所 伊豆農業研究センター 賀茂郡東伊豆町稲取 3012

### 4 内容

(1) 研究施設（温室、ほ場）の公開（定員各10人）

・【予約制】 研究員案内による場内ツアー ①10:30 ②14:00

(2) 試験研究新技術展示

・研究成果のパネル展示、動画上映

・ワサビ、花きの育成品種展示

・【予約制】 研究員による講演3本（定員各10人）

（河津桜の開花予測・花の育種最前線・ワサビの栽培から味わい方）

(3) カンキツ類新品種の試食【予約制】（定員各15人）

開始時間 10:00、10:30、11:00、11:30、13:00、13:30

※予約制の企画への参加希望者は1/19(金)までにメールかFAXまたは電話で申込みください。様式は自由で、氏名と連絡先、希望回を記載してください（団体での参加は代表者の必要事項と人数を記載）。

※詳細な内容は、ホームページに掲載しますので確認ください。

※農産物の販売は行いません。

【問合せ先】 伊豆農業研究センター

賀茂郡東伊豆町稲取 3012

電話 0557-95-2341 FAX 0557-95-0533

E-mail agriizu@pref.shizuoka.lg.jp

HP [www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/](http://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/)



↑公式X

[norinjimusho/izunogyo/index.html](http://norinjimusho/izunogyo/index.html)

## 春季観光イベント期間における道路工事の自粛について

---

(下田土木事務所)

### (目的)

春季観光イベント時期の車両増加を考慮し、周辺道路の円滑な車両交通の確保を図るため、工事施工業者及び占用工事関係者の方々の協力の下、車線規制を伴う道路工事を自粛する。

### (概要)

#### 1 期間及び時間帯

期間 令和6年2月1日(木)から令和6年2月29日(木)まで  
時間 午前6時から午後8時まで

#### 2 工事自粛の対象路線

- ・一般国道 135号(下田土木事務所管内全線)
- ・一般国道 136号(下田市中島橋交差点～南伊豆町下賀茂交差点)
- ・一般国道 414号(新天城トンネル～下佐ヶ野交差点)
- ・主要地方道 下佐ヶ野谷津線(全線)
- ・一般県道 稲取停車場線(全線)
- ・一般県道 稲取港線(全線)

#### 3 工事自粛の内容

- ・対象時間帯においては、車線規制を伴う工事を自粛し、車線規制は資機材搬入等一時的なものに限定する。
- ・車線規制を伴わない工事の際は、道路工事着手前と同等の車道幅員を確保する。
- ・以上のとおり道路工事を自粛し、円滑な車両交通の確保に努める。ただし、災害等緊急を要する工事についてはこの限りではないものとする。

担 当 維持管理課管理班  
連絡先 0558-24-2108

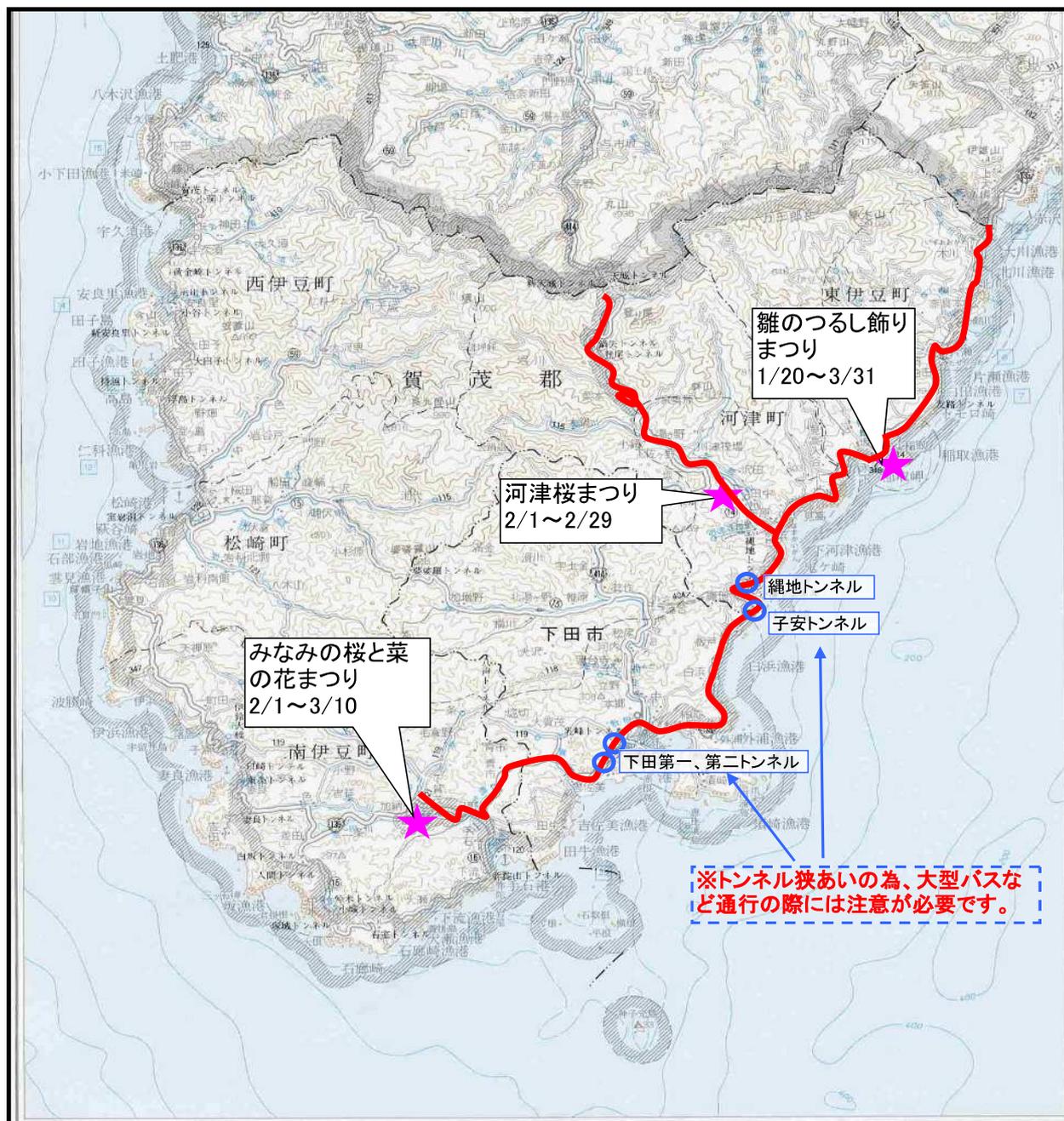
## 春季観光イベント期間における道路工事の自粛について(お知らせ)

下田土木事務所では、交通量が増大する春季観光イベント期間の渋滞対策として、下記路線にて道路工事を自粛します。  
道路利用者及び道路工事関係者の皆様につきましては、ご理解ご協力のほどよろしくお願い致します。

＜期間＞ 令和6年2月1日(木) ～ 令和6年2月29日(木)

＜対象路線＞ \* 下記赤色着色路線

- ・国道 135号 (下田土木事務所管内全線)
- ・国道 136号 (下田市中島橋交差点～南伊豆町下賀茂交差点)
- ・国道 414号 (新城トンネル～下佐ヶ野交差点)
- ・県道 下佐ヶ野谷津線 (全線)
- ・県道 稲取停車場線 (全線)
- ・県道 稲取港線 (全線)



\* なお、上記内容は天候及び緊急工事(占用工事を含む)などにより変更となる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

問い合わせ先  
〒415-0016 下田市中531-1  
静岡県下田土木事務所  
担当:維持管理課  
電話:0558-24-2108